諸中 TIMES

感謝・感動・感激がいつもある学校をめざして

第11号 2026年11月13日（金）
大東市立諸福中学校
校長　　岸野　匡憲
０７２－８７１－５７１１
ＨＰ毎日更新しています！

第47回体育大会　成功裏に終わりました
～「一生懸命はかっこいい」「がんばることが恥ずかしくない学校」を見事に体現～

生徒の体育大会に懸ける想いや保護者の皆様のご支援・ご協力により、天候にも恵まれ、無事に閉会式まで実施することができました。何より、諸中生のてきぱきとした招集や入退場が体育大会を成功裏へと導きました。体育大会を挙行するにあたり、ＰＴＡ役員の皆様、賛助会員の皆様をはじめ、たくさんの方のご協力をいただいたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

１０月５日（月）から本格的に始まった体育大会練習では、生徒会役員や各団の団長のパワーのあるリーダーシップで、どの練習もとてもスムーズに行うことができていました。諸中生の「底力」と「対応力」には本当に感心し、成長をうれしく思いました。体育大会当日を少し、振り返ってみたいと思います。

◇開会式

生徒の入場や準備体操も「全体の美」を感じるほど、全校生徒の動きが揃っていました。生徒会長のあいさつや選手宣誓も見事でした。開会式から「諸中生のやる時はやる」を十分に感じることができました。

◇準備体操

朝礼台に上がった代表生徒の動きをきちんと見て、準備体操をすることができていました。動きが揃っていたので、心までそろっているように見えました。

◇１００ｍ走

手を抜かないで、最後まで走り切っている姿に感心しました。「一生懸命はかっこいい」を１００ｍ走で感じることができました。

◇６０ｍハードル

招集・入場・退場まできちんとできていました。ハードルが倒れても、果敢に走ろうとしている諸中生がグラウンドにいました。

◇２人３脚リレー

足を結んでいるタスキが切れてしまうアクシデントに見舞われながらも最後まであきらめずに全員が走り切りました。

◇団体種目　ムカデ競争

練習の成果が表れていました。掛け声をみんなで出したおかげで、動きもそろ

っていました。優勝は朱雀団でした。
◇１年学年種目「ボールが落ちる心配？そんなの大丈Ｖで走」
　ブルーシートに乗ったボールをバトン代わりにしていました。ボールを落とさないようにクラスの仲間と協力することができていました。優勝は２組でした。
◇２年学年種目「すすめ！ひっスイミーの大航海」
　木の板（船）に班員（船員）を乗せ、木の棒（オール）を使って、向こう岸（港）まで行く競技でした。班の仲間の協力がないと、船が進まないという実によく考えられた内容に感心しました。優勝は３組でした。
◇３年学年種目「１０９人のお引っ越しFINAL」
　４５期生の本気の走りに感激しました。中学校生活最後の体育大会にかける熱い想いが競技全体に表れていました。クラスの仲間を応援する態度も本当によかったです。優勝は２組でした。
◇団体種目　台風の目
　各団で作戦を練って競技に参加をしていることが分かりました。競技に参加をしている生徒の様子を見ていると、やはり「一生懸命はかっこいい」と感じました。優勝は獅子団でした。
◇団体種目　大玉運び
　応援する声が一段と大きくなっていました。生徒席では団旗を振りながら、必死に自分の団を応援する姿に感動しました。優勝は青龍団でした。
◇団体種目　大縄跳び
　一生懸命に練習してきた成果を思う存分発揮していました。生徒の表情を見ていると、「やり切った！」という達成感もうかがえました。優勝は朱雀団の１８回でした。
◇団体種目　団対抗リレー
　体育大会一番の歓声の中で、グラウンドで団の思いを背負って一生懸命に走っている選手を全員で熱く応援することができていました。体育大会のフィナーレにふさわしい大盛り上がりの競技になりました。優勝は青龍団でした。
◇閉会式（成績発表）
　各団の結果です。
　優勝 獅子団（４５３点）準優勝 朱雀団（４３７点）第３位 青龍団（４３２点）

　準備や後片付けをいつも快くがんばってくれた生徒会や委員会の生徒、当日の進行を完璧に行った放送部、全校生徒を最高学年として大いに引っ張ってくれた３年生に感謝しています。たくさんの方のご協力やご支援があったからこそ、第４７回体育大会を成功裏に終えることができました。体育大会に関わってくださったすべての方にお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

《裏面もご覧ください》

◇生徒会長　あいさつ　３年１組

おはようございます。いよいよ体育大会当日です。今日までたくさんの練習をしてきました。毎日すごく暑い中、みんなで声をかけあって頑張ってきました。練習がうまくいかなくて大変だった日もあったと思います。でも、団長や種目長を中心に引っ張ってくれたおかげで、今日を迎えることができました。３年生は中学校生活最後の体育大会です。勝ち負けじゃなく、この仲間で挑める最後の一日を悔いのないものにしましょう。２年生はいつもの明るさや元気を忘れずに全力でがんばりましょう。１年生は初めての体育大会を思いっきり楽しみ、自分たちの力を発揮してください。

そして、朝早くから私たちの応援に来てくださった保護者の皆様、本日はお忙しい中、お越しいただきありがとうございます。

それでは、みんなが「楽しかった！」と言って終われるように優勝をめざして最高の体育大会にしましょう。

大東市小中学生弁論大会に出場しました

「今、自分が考えること」

一年一組

僕は吃音があります。話す時に言葉が出にくくなる時があります。特に、緊張している時になりやすいです。僕に吃音があることや吃音はどんなものかを知ってほしいと思います。

吃音のことを本やネットで調べると色々と情報が出てきます。ただ、経験を通して僕なりに自分の言葉で伝えたいと思います。

吃音が出たのは、僕が三歳の頃だと親から聞きました。話している時に同じ言葉を何度も言ったり、話したいけど言葉が出てこなかったりしたのが始まりです。例えば、「おはよう」というあいさつが「お、お、お、お」と何回も同じ音を繰り返してしまいます。僕自身が気づいたのは、幼稚園の年長の頃でした。普通に話しているつもりだったのに、言葉が出にくく、「なんでやろう？」と思ったことを覚えています。ただ、不思議なもので、嫌な思い出はもっと鮮明に覚えています。小学校の頃、人と話している時に言葉が詰まって必死にしゃべろうとしても言葉が出ず、笑われてしまったことがあります。うまく言葉が出ない時は、どうにか話そうと力が入り、顔をゆがませたり、手で服を強く握ったりしていました。吃音を知らない人からしたら、「変なしゃべり方だな。」と思うかと思います。笑われたり、ばかにされたりするのが嫌で、吃音を知らない人とはしゃべりたくないと思いました。また、吃音で言葉が出ない自分のことを好きになれませんでした。

でも、お父さんとお母さんから、そのしゃべり方が「あんたの個性やで。」

という言葉をかけてもらってから、少しずつ、気持ちが軽くなっていきました。「個性」という言葉の意味すら分からなかった僕ですが、父と母が自分のことを思ってくれてることは分かりました。そこから、少しずつ、嫌でも人と話していこうと思うことができました。それからは、発表する時や言葉が詰まって笑われるんじゃないかと心配になった時は、お守りのようにその言葉を思い出します。ただ、小さい頃は吃音で嫌な思い出しかありませんでした。

しかし、小学校に入り、うれしかったこともありました。周りの友達が吃音のことを知ってくれる人が増え、何度も言葉が詰まっても待ってくれ、「気にせんでええで。」と温かい言葉をかけてもらい、とてもうれしかったを覚えています。なかでも、小学校高学年の時に、同じように吃音で笑われてしまうことがありました。その時に友達がすかさず、「悠朗には吃音があるねん。笑ったんなや。」と僕をかばってくれました。笑われたことなんかより、僕のために勇気を出してかばってくれた友達の言葉がなにより、うれしかったことを覚えています。

幼い頃、いつも温かく向き合ってくれた言語聴覚士の先生がいました。遊びの延長のように思えたその時間は、僕にとって吃音と向き合う最初の扉でした。「吃音は一生付き合っていくもの。」そう教えられた日のことは今でも心に残っています。先生は、ただ現実を告げるだけでなく、前を向くためのたくさんのヒントをくれました。「リンゴ」という言葉がつっかえるのなら、「赤い果物」に言い換えてみたり、思い切って英語の「アップル」にしてみたりする。言葉につまずいた時の逃げ道ではなく、表現を豊かにする工夫を教えてくれました。さらに、言いにくい言葉をメモに書き、どんな場面で吃音が出やすいか自分で統計をとることも勧められました。半信半疑で試していくうちに、それまで気づかなかった自分のパターンや心の揺らぎが少しずつ見えてきました。吃音と向き合う私に先生は、「悩んでいる暇があるなら、解決するために色々なことをまずやってみる。うまくできたことは続け、うまくできなかったことは変えればいい。それは悠朗にしかできないことやで。」と言ってくれました。当時はまだ子どもだったので、その言葉の本当の意味は分かりませんでした。しかし、中学生になった今、お母さんが残してくれたメモから当時の先生の温もりを感じます。

僕は、今まで同じ吃音の人に出会ったことがありません。もしかしたら、まだ気付かないだけかもしれません。もし、皆さんが吃音の人に出会った時、その人が言葉に詰まっても何も言わずに待ってあげてください。そうすると安心して話せると思います。僕もいまだに言葉に詰まることはありますが、みんなが当たり前のように接してくれるので気にせずにいられます。高校生になって、みんなと離れることを考えると不安になります。でもその不安に負けないように、これからも自分なりに言葉を紡いでいけたらと思っています。

最後に、吃音のある自分に自信を与えてくれた両親に一番感謝しています。僕もこれから生きていく中で両親にしてもらったように、周りにいるすべての人に「ありのままでいい」ということを伝えていきたいと思います。